

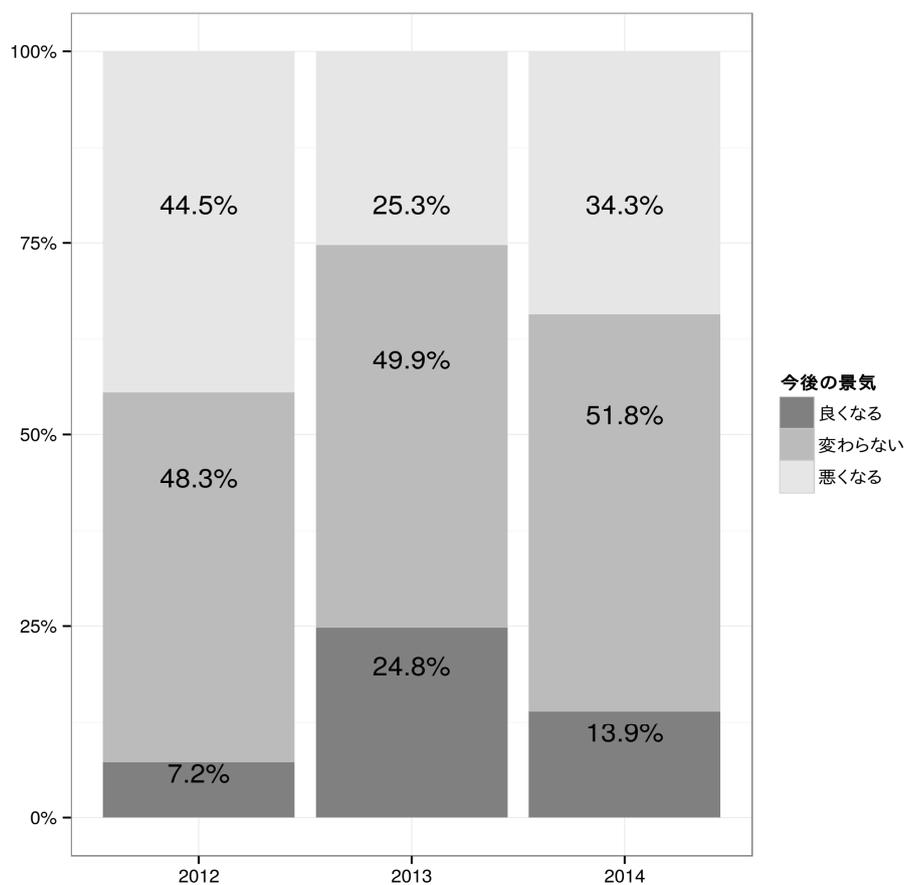
2. 所得と景況観

(1) 景況感の年次変化

「日本の景気は今後、良くなると思いますか」という質問について、回答の推移を図表 2-1 にまとめた。対象者は 2014 年時点で 30～55 歳の女性で、回答は各年とも 10 月時点のものである。

2012 年末に政権が交代し、翌 2013 年は、「良くなる」との回答が 25%と、4 分の 1 の人が景気に対して明るい見通しを示していた。2012 年では「良くなる」という回答は、7%程度だったため、景気の先行きに期待を持った世帯が増えたことがわかる。一方で 2014 年は、景気が「良くなる」の割合は下がり、「悪くなる」という割合がやや増えている。ただし、3 年間を通して「変わらない」と回答する割合が、ほぼ半数を占めている。多くの世帯にとっては、景気回復をはっきりと実感できていなかったのが実情のようである。

図表 2-1 景況感の年次変化



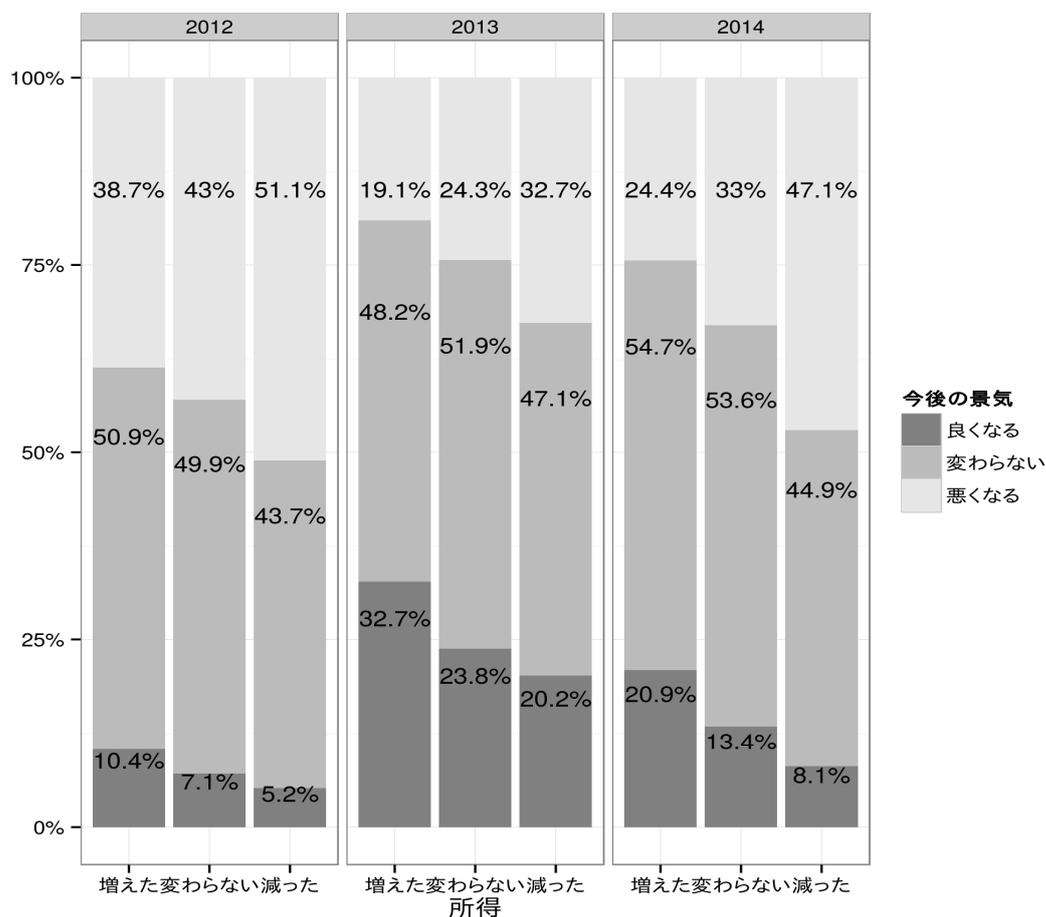
(人数 2012 年：1,961 人、2013 年：1,888 人、2014 年：1,806 人)

(2) 所得の増減と景況観

個々の家計が景気の良し悪しを直接感じる機会として、世帯所得の変動がある。ここでは、世帯所得の前年からの変動が、その世帯の景気見通しにどのように影響したかを年次別にみた。

2012年から2013年にかけては、世帯所得の増減にかかわらず、どのグループでも景気が「良くなる」と回答した割合が大幅に増えていた。一方で2013年から2014年の推移は、いずれのグループでも「良くなる」と回答した割合が10%ポイント近く減少している。景気が「悪くなる」と回答した割合は、所得増のグループで約4%ポイント、所得減のグループでは約14%ポイント増加していた。

図表 2-2 所得の増減別、景況感の年次変化



人数

2012年 減：577人、不変：986人、増：395人

2013年 減：465人、不変：1,023人、増：398人

2014年 減：408人、不変：997人、増：397人